

①

**【実践Ⅰ】「のこりはいくつ ちがいはいくつ」第1時**

本時のねらい    ブロックの操作を通して、減少の場面を正しく理解し、減法の息の表し方や読み方、「ひきざん」の用語を知り、正しく使うことができる。

問題                始めに金魚が5匹います。2匹取ります。残りは何匹になるでしょう。

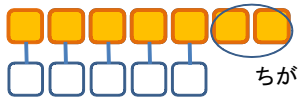
数学的な見方・考え方	手だて	見届けの視点
<ul style="list-style-type: none"> <li>金魚5匹はブロック5個</li> <li>「2匹取る」ので、2個のブロックをどける（取り除く）と残りが分かる。</li> <li>5は2と3</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ペープサートで「2匹取る」場面を理解できるようにする。</li> <li>ブロックの「取る」動きと、ペープサートの「取る」動きが一致するように、交互に見せる。</li> <li>板書で、言葉・ブロック・式がつながるように、色を統一する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「始めに5匹います。2匹取ります。残りは3匹です。」と、操作をしながら話す。</li> </ul>

②

**【実践Ⅱ】「のこりはいくつ ちがいはいくつ」第4時**

本時のねらい    比較の場面について、減法の意味を理解し、文字や記号を用いて、減法の式に表わして答えを求めることができる。

問題                赤い金魚が7匹、黒い金魚が5匹います。赤い金魚は黒い金魚より、何匹多いでしょう。


数学的な見方・考え方	手だて	見届けの視点
<ul style="list-style-type: none"> <li>ペアになった5を引けば、残りが「違い」になる。</li> </ul>  <ul style="list-style-type: none"> <li>1対1の対応で数の大小が判断できる。</li> <li>ペアになったものは、同じ数。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>黒い金魚とペアになった5匹分のブロックを白にし、7だけに着目できるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「ペアになった5を取ります。」と、操作をしながら話す。</li> </ul>

③

**【実践Ⅲ】「たしざん」 第1時**

本時のねらい    1位数と1位数をたして和が11以上になる加法において、ブロックの操作を通して、10のまとまりを作ればよいことに気づき、加数を分解して計算する方法を説明することができる。

問題                9人で遊んでいます。そこに、4人やって来ました。みんなで何人になったでしょう。

数学的な見方・考え方	手だて	見届けの視点
<ul style="list-style-type: none"> <li>10を超える時には、「10のまとまり」ができる。</li> <li>9に1をたすと10になる。</li> </ul>  <p style="text-align: center;">10のまとまり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>4を1と3に分ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>10のまとまりケースを利用してブロックを置く。</li> <li>9+4の式とブロックが一致する板書にする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>9に4の中の1をたして10のまとまりを作っている。</li> </ul>